

上北農業生産情報 第4号

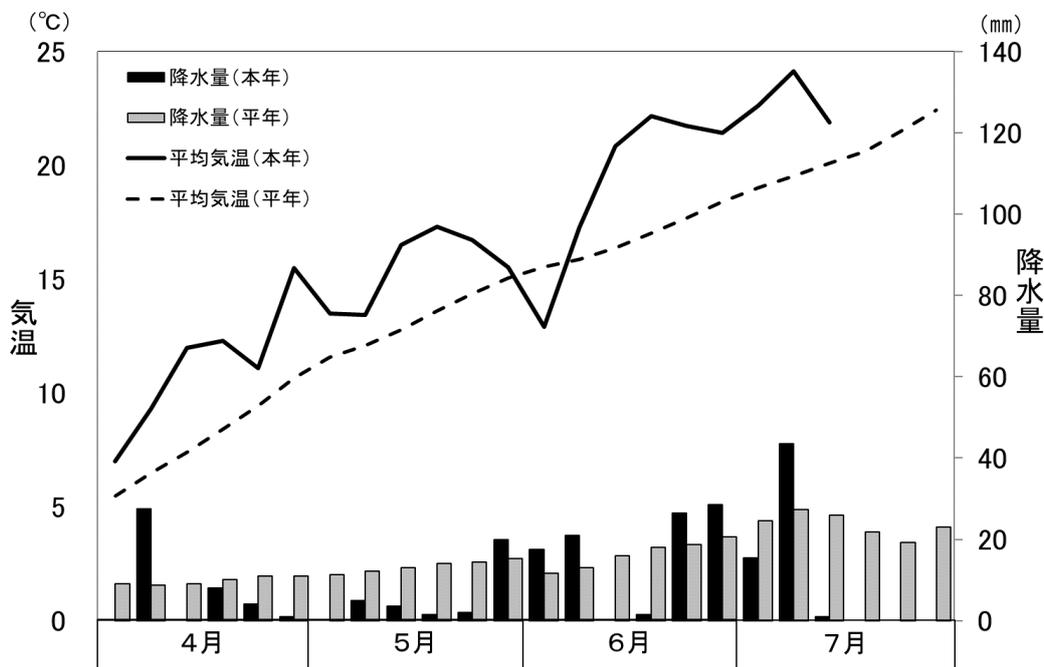
令和6年7月22日
上北地域県民局地域農林水産部長

令和6年度 青森県農薬危害防止運動展開中

実施期間：令和6年6月1日～8月31日

- 農薬は使用前に必ずラベルを確認しましょう！
- 周囲に飛散させないようにしましょう！
- クロルピクリン剤を施用したら、必ず「被覆」しましょう！
- 水田で使用した農薬が河川に流れ出るのを防ぎましょう！
- 散布器具の洗浄は十分に行い、使用前後に点検しましょう！
- 使用者自らも農薬を浴びないように注意しましょう！
- 施錠して保管し、余った農薬や空き容器は適切に処分しましょう！

気 象



【半旬別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）】

《6月》

- ・平均気温は、上旬は平年を下回り、中・下旬は平年を上回った。
- ・日照時間は、上旬は平年を下回り、中・下旬は平年を上回った。
- ・降水量は、中旬は平年を下回り、上・下旬は平年を上回った。
- ・東北北部の梅雨入りは6月23日で平年より8日遅く、昨年より14日遅かった。（6月23日、仙台管区气象台発表）。

【6月の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温°C		最高気温°C		最低気温°C		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	15.1	15.7	19.4	20.9	11.6	11.0	40.6	59.7	38.5	24.7
中旬	21.5	16.7	28.0	21.6	16.0	12.6	113.0	48.8	1.5	34.0
下旬	21.6	18.0	27.5	22.7	16.5	14.0	70.9	48.4	55.0	39.4

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

《7月上旬》

平均気温は平年に比べ4.1℃高く、日照時間は平年を上回り、降水量は平年を上回った。

【7月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年								
上旬	23.4	19.3	27.4	23.8	19.0	15.5	52.5	43.8	59.0	51.9

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方1か月予報(7月20日から8月19日までの天候見通し)

令和6年7月18日 仙台管区气象台 発表

- 東北太平洋側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 平均気温は、高い確率80%です。
- 降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

水 稲

- 1 生育観測ほの7月16日現在の生育は、草丈、葉数は平年を上回り、茎数は平年並であった。
- 2 幼穂形成期は、平年より8日早い7月4日に到達した。

【生育観測ほの生育状況（品種：まっしぐら）】

年次	7月16日現在				穂首 分化期 (月/日)	幼穂 形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)
	草丈 (cm)	茎数		葉数 (枚)			
		(本/株)	(本/m ²)				
本年	76.7	20.2	412	11.4	6/27	7/4	(7/29)
平年	65.3	20.3	418	10.6	7/2	7/12	8/6

注) 本年値は管内生育観測ほ（4地点）の平均値

平年値は昨年までの管内生育観測ほ（3地点）の平年値の平均

出穂期は幼穂形成期+25日で予想（今後の天候により変動する）

《今後1か月間の主な作業》

1 水管理

ア 低温に最も弱い穂ばらみ期（出穂20～11日前）となっているので、低温が続く予報となった場合（最低気温17℃、日平均気温20℃以下）には、15cm以上の深水とし、幼穂を保護する。

高温が続く場合は、4cm程度の浅水や時々水の入れ替えを行い、根の活力を保つ。

イ 出穂・開花期は最も水を必要とする時期なので、出穂後10日間は5～6cmの水深とする。平均気温20℃以下の低温が続く場合は、10cm程度の深水にして保温する。

高温時には、時々水の入れ替えを行う。

2 病虫害防除

ア いもち病

葉いもちは、ほ場をよく見回り早期発見・早期防除に努めるとともに、出穂直前及び穂揃期の2回防除を徹底する。

イ 斑点米カメムシ類

- ・カメムシ発生を防ぐため、草刈りは出穂1週間前までに終える。
- ・やむを得ず出穂後に草刈りを行う場合は、本田への薬剤散布後速やかに実施する。
- ・薬剤防除は、
 - 1回散布：穂揃期～穂揃7日後 又は 穂揃7～14日後（残効性が高い薬剤）
 - 2回散布：穂揃期とその7～10日後（残効性が低い薬剤）使用する薬剤の使用時期・回数を確認して適正に散布する。
例年被害の多いほ場やカメムシの発生が多くなっているほ場は、最終散布7～10日後に追加防除を行う。

ウ 紋枯病

出穂直前に防除を実施するとともに、前年発生が多かったほ場や多肥栽培により株が込み入って繁茂しているほ場は多発生が予想されるので、穂揃期にも追加防除を行う。

大豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月10日現在の生育は、草丈、葉数ともに平年を上回っている。
- 2 湿害等の発生はみられず、生育は順調である。
- 3 食葉性害虫による被害が散見されるが、発生程度は例年並みである。

【生育観測ほの生育状況（品種：おおすず）】

調査地	7月10日現在					
	草丈(cm)			葉数(枚)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
十和田市切田	54.6	46.6	53.2	7.3	6.5	7.0

注1) 平年値は令和3年～5年の平均

《今後1か月間の主な作業》

- 1 病害虫防除
べと病やアブラムシ類、食葉性害虫の発生状況を確認しながら、必要に応じて防除を行う。
- 2 除草
雑草が多い場合は、雑草の種類や生育ステージに合った除草剤で防除するほか、中耕によりほ場へすき込む。中耕する場合は、落花を防ぐため開花前までに作業する。

ながいも

《生育状況》

- 1 県生育観測ほのネット頂到達日は平年より10日早い6月29日であった。
7月10日現在の地下部の生育は、いも長、いも重、いも径とも平年を上回っている。
- 2 一般ほ場は、種いもの種類や植付け時期の違いで生育にばらつきが見られるものの、おおむね順調である。
病害虫では、ナガイモコガ、コガネムシ類の食害が見られる。

【県生育観測ほの生育状況（種いも：1年子芽付き）】

調査地	年次	植付期 (月/日)	萌芽揃期 (月/日)	つるのネット 頂到達日 (月/日)	7月10日現在		
					いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
東北町滝沢平	本年	5/11	5/29	6/29	18.4	11.8	11.6
	平年	5/ 8	6/ 5	7/ 9	13.4	7.0	8.2
	前年	5/ 5	6/ 1	-	15.6	6.2	8.6

注1) 平年値は平成26年～令和5年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 追肥

追肥にあたっては、新しいもの生育状況を確認しながら、遅れないように実施する。

ア 早植栽培（4月下旬～5月上旬植付け）

- ・ 2回目、3回目の追肥を、それぞれ前回から10～14日間隔で行う。
- ・ 1回当たりの追肥量は、窒素成分で10 a 当たり 5 kg程度とする。

イ 普通栽培（5月中旬～6月上旬植付け）

- ・ 1回目の追肥時期は7月中下旬頃で、いも長が10～15cmを目安に行う。
- ・ 2回目、3回目の追肥は、それぞれ前回から10日間隔で行う。
- ・ 1回当たりの追肥量は、窒素成分で10 a 当たり 5 kg程度とする。

ウ 追肥の終了時期

早植栽培、普通栽培ともに、最後の追肥は8月20日までに終了する。

2 病虫害防除

葉渋病、炭そ病は、茎葉が繁茂する前から予防防除を行う。早植栽培では茎葉の繁茂が早いことから7月中旬～8月上旬に、普通栽培では7月末～8月中旬に10日間隔で2回程度薬剤散布を行う。

3 その他

強風や大雨に備え、ネットや支柱の補強及び明きょ等の排水対策を徹底する。

露地ねぎ

- 1 生育観測ほの7月10日現在の生育は、草丈及び茎径は平年を下回っている。
- 2 一般ほ場の生育は概ね順調である。アザミウマ類及びネギハモグリバエの被害痕、さび病や乾燥の影響による葉先枯れ症状が一部のほ場で見られる。

【生育観測ほの生育状況（品種：夏扇パワー）】*参考値

調査地	年次	は種期 (月/日)	定植期 (月/日)	7月10日現在	
				草丈 (cm)	茎径 (mm)
十和田市洞内	本年	1/23	4/ 2	72.1	16.4
	平年	1/27	4/13	89.6	21.5
	前年	1/20	4/ 1	87.5	20.7

注1) 平年値は令和2年～令和5年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 病虫害防除：べと病、さび病、斑点性病害、アザミウマ類、ネギハモグリバエ等の防除を行う。
- 2 土寄せ、追肥、培土を計画的に行う。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月10日現在の生育は、草丈が28.1cm、葉数が4.0枚で、は種期が平年より大幅に遅れたものの、その後は順調である。
- ※春の雪解けが遅く、その後の作業（他の作物の作業）の遅れからは種期が遅くなった。
- 2 一般ほ場の生育は順調であるが、6月の乾燥により草丈の揃いが悪いほ場も見られる。
- 3 病害虫は、アブラムシ類が多く見られ、ハモグリバエ等による食害が散見される。

【生育観測ほの生育状況（品種：柳川理想）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	7月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/16	28.1	4.0
	平年	5/1	68.2	3.9
	前年	4/28	91.8	4.6

注1) 平年値は平成26年～令和5年の10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

病害虫防除：黒斑細菌病、黒条病を主とした病害の予防防除、ヒョウタンゾウムシ及びアブラムシ類の防除を行う。

ばれいしょ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月10日現在の生育は、いも数は平年比90%、いも重は平年比105%であった。品質は比較的良好で、そうか病や二次肥大は見られなかった。
- ※茎葉の抜取りが7月6日に行ったため、草丈調査は未実施。
- 2 茎葉処理(枯凋剤散布もしくは茎葉の抜取り)は、6月第4半旬から始まっている。また、6月第5半旬から収穫、7月第1半旬から出荷が始まっている。
- 3 病害虫では、アブラムシ類の発生が見られる。

【生育観測ほの生育状況（品種：メイクイン、黒マルチ）】

調査地	年次	植付期 (月/日)	萌芽期 (月/日)	開花期 (月/日)	7月10日現在		
					草丈 (cm)	いも数 (個/a)	いも重 (kg/a)
三沢市庭構	本年	3/25	5/3	5/31	—	3,810	399.2
	平年	3/31	5/1	6/5	76.8	4,222	381.0
	前年	3/25	4/24	6/3	59.7	5,000	428.0

注1) 平年は平成26年～令和5年の10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

- ・茎葉処理：枯凋剤の使用は、茎葉の黄変期～枯凋期（収穫14日前まで）に処理する。
- ・収穫：茎葉の枯れ、いも表皮のコルク化を確認してからの適期収穫と、風乾を徹底する。

りんご

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の7月11日現在の果実肥大(横径)は平年を上回っている。

【生育観測ほの生育状況】

調査地	品種	7月11日現在の果実肥大(横径)				
		本年(cm)	平年(cm)	平年比(%)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	ふじ	5.4	5.0	110	5.4	100

注1) 平年は平成28年～令和5年までの8か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 摘果

仕上げ摘果が終了した園地でも、必ず見直しをする。

2 病害虫防除

モモシクイガの産卵が続いているので、無袋栽培では毎回の薬剤散布にモモシクイガの防除剤を混用する。腐らん病の発生が見られるので、枝腐らんは、見つけ次第切り取り、胴腐らんは再発病斑を含め、適切に処置を行う。

牧草

《今後1か月間の主な作業》

1 2番草の収穫及び追肥

オーチャードグラス主体の草地では草丈が70～80cmとなったら、地際より10cm以上で刈取りし、収穫後は速やかに追肥する。

2 草地の更新

牧草の収量が減少してきた草地は計画的に更新し、生産力の回復に努める。牧草のは種は9月中旬を目安に行う。

ア 土壌改良・は種床の造成

堆肥の散布・耕起を行い、石灰質資材やリン酸質資材を散布、砕土・整地しては種床を造成する。

イ 3～4週間放置

は種床造成後3～4週間放置し、雑草を十分に発芽させる。

ウ 除草剤散布(8月下旬～9月中旬)

雑草が十分に出揃ったら非選択性除草剤を散布する。

エ は種・施肥・鎮圧(8月下旬～9月中旬)

除草剤散布後、雑草表面が乾いたら、牧草のは種と施肥を行い鎮圧する。なお、除草剤散布と同日には種できない場合であっても、できるだけ速やかには種する。

飼料用とうもろこし

《生育状況》

生育観測ほ(7月1日現在)の生育は、草丈は平年を上回っているが、葉数は下回っている。

【生育観測ほの生育状況（品種：スノーデント110）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	7月1日現在	
			草丈(cm)	葉数(枚)
東北町北栄	本年	5/24	73.0	7.0
	平年	5/19	58.9	7.5
	前年	5/22	78.6	8.1

注) 平年値は、平成30年～令和5年の6か年の平均値